

平成 2 3 年度第 1 7 回定例会

八王子市教育委員会会議録

日	時	平成 2 4 年 2 月 2 2 日 (水)	午前 9 時
場	所	八王子市役所 議会棟 4 階	第 3 ・ 第 4 委員会室

第 17 回定例会議事日程

- 1 日 時 平成 24 年 2 月 22 日 (水) 午前 9 時
 - 2 場 所 八王子市役所 議会棟 4 階 第 3・第 4 委員会室
 - 3 会議に付すべき事件
 - 第 1 第 48 号議案 八王子市教育委員会事務局職員人事について
 - 第 2 第 49 号議案 八王子市立学校教職員人事の内申について
 - 第 3 第 50 号議案 八王子市立学校教職員の処分の内申について
 - 第 4 第 51 号議案 平成 23 年度 2 月補正予算の調整依頼について
 - 第 5 第 52 号議案 平成 23 年度八王子市教育委員会表彰について
 - 第 6 第 53 号議案 卒業式及び入学式の「お祝いのことば」について
 - 4 報告事項
 - ・平成 24 年度教育予算の内示状況について (教育総務課)
 - ・第 62 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会の結果について (スポーツ振興課)
-

八王子市教育委員会

出席委員 (5 名)

委 員 長	(1 番)	小田原 榮
委 員	(2 番)	和 田 孝
委 員	(3 番)	川 上 剋 美
委 員	(4 番)	金 山 滋 美
教 育 長	(5 番)	石 川 和 昭

教育委員会事務局

教 育 長 (再 掲)	石 川 和 昭
学 校 教 育 部 長	坂 倉 仁
学 校 教 育 部 指 導 担 当 課 長	佐 島 規

教 育 総 務 課 長	穴 井 由 美 子
学 校 教 育 部 主 幹 (企 画 調 整 担 当)	平 塚 裕 之
施 設 整 備 課 長	矢 光 克 彦
学 事 課 長	海 野 千 細
学 校 教 育 部 主 幹 (保 健 給 食 担 当)	山 野 井 寛 之
指 導 課 長	廣 瀬 和 宏
指 導 課 統 括 指 導 主 事 (特 別 支 援 教 育 ・ 教 育 セ ン タ ー 担 当)	藏 重 佳 治
指 導 課 統 括 指 導 主 事 (企 画 調 整 担 当)	所 夏 目
指 導 課 統 括 指 導 主 事 (教 育 施 策 担 当)	山 下 久 也
指 導 課 先 任 指 導 主 事	木 下 雅 雄
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 長	榎 本 茂 保
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 参 事 (図 書 館 担 当)	望 月 正 人
生 涯 学 習 総 務 課 長	宮 木 高 一
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	小 山 等
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 主 幹 (ス ポ ー ツ 施 設 担 当)	遠 藤 幸 保
国 体 推 進 室 主 幹	富 貴 澤 繁 幸
国 体 推 進 室 主 幹	高 橋 利 光
学 習 支 援 課 長	小 松 正 照
文 化 財 課 長	田 島 巨 樹
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 主 幹 (図 書 館 担 当)	中 村 照 雄
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 主 幹 (図 書 館 担 当)	田 中 明 美
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 主 幹 (図 書 館 担 当)	玉 木 伸 彦
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 主 幹 (こ ど も 科 学 館 担 当)	齋 藤 和 仁
教 育 総 務 課 主 査	遠 藤 徹 也
ス ポ ー ツ 振 興 課 主 査	田 中 嘉 之

事務局職員出席者

教 育 総 務 課 主 任

川 村 直

教 育 総 務 課 主 任

最 上 和 人

【午前9時00分開会】

小田原委員長 大変お待たせいたしました。本日の委員の出席は5名全員でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより、平成23年度第17回定例会を開会いたします。

いつも申し上げておりますけれども、電力不足が心配される中、本市では節電の取り組みを継続しております。照明は一部消灯とさせていただいておりますので、御理解いただきますよう、お願いいたします。

小田原委員長 日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は、2番、和田孝委員を指名いたします。よろしく申し上げます。

なお、議事日程中、第48号議案、第49号議案、第50号議案及び第52号は、審議内容が個人情報に及ぶため、また第51号議案及び報告事項「平成24年度教育予算の内示状況について」は、いまだ意思形成過程のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項及び第7項の規定により非公開といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 御異議ないものと認めます。

小田原委員長 それでは、それ以外の日程について進行いたします。

日程第6、第53号議案、卒業式及び入学式の「お祝いのことば」について、を議題に供します。

本案について、教育総務課から御説明願います。

穴井教育総務課長 それでは、第53号議案 卒業式及び入学式の「お祝いのことば」について、説明いたします。

詳細は、担当の遠藤主査から御説明します。

遠藤教育総務課主査 本件は、平成23年度卒業式及び平成24年度入学式における小中学校の「お祝いのことば」の文案について、決定していただくものでございます。

議案関連資料の一枚目を御覧下さい。まず目的でございますが、教育委員会として児童・生徒の卒業と入学を祝い、新たな生活に向けた心構えや目標など、児童・生徒、保護者他、関係者へ向けてメッセージを述べる、というものです。

構成は、まず本人へのお祝い、次に新たな生活に向けた心構えや目標、続いて家族や

保護者、関係者へのお祝いやお礼等のメッセージを送るという順番になっております。

内容は、昨年度の文章を基に事務局で作成させていただきました。文案は一枚目の裏面以降に掲載しておりますので、個別に読み上げはいたしません。小学校卒業式、中学校卒業式、高尾山学園卒業式、第五中学校夜間学級卒業式、小学校入学式、中学校入学式、加住小中学校入学式の順に掲載しております。

議案関連資料には、新旧の「お祝いのことば」の対照表を掲載させていただきました。対照表は横型になっておりますが、右側が前回の文章、左側が今回の文案となっており、前回から変更した箇所は二重線や下線で示しています。

主な変更点は、小・中学校の卒業式の文案の中で、昨年3月11日に発生した東日本大震災で、児童・生徒が感じたであろう人と人との絆について述べた点です。今後の人生においてもこの教訓を忘れずに困難に立ち向かっていって欲しい気持ちを追加した形になっております。その他、細かい部分についても、若干の文言訂正をさせていただいております。

なお、今年度は第五中学校の夜間学級卒業式、来年度は加住小中学校で合同入学式が開催されるということで、これら二つの文案も議案として掲載させていただいております。第五中学校の夜間学級については、異文化理解、また、加住小中学校については、小中一貫教育といった内容を盛り込んだ文案とさせていただきます。

それでは、議案関連資料の一枚目にお戻り下さい。式典の日程ですが、卒業式は中学校が3月19日月曜日、小学校が3月22日木曜日で、第二小学校のみ、3月24日土曜日に卒業式を行うことになっております。また、入学式は、小学校が4月6日金曜日、中学校が4月9日月曜日となっております。加住小中学校の合同入学式につきましては、4月9日月曜日となっております。

式典当日は、市長、副市長、教育長、教育委員、部課長に出席をお願いして、この教育委員会からのメッセージを伝えていただきたいと思いますと考えています。

説明は以上でございます。

小田原委員長 教育総務課からの説明は終わりました。

本案について、御質疑はございませんか。

和田委員 構成の中には入っていなかったのですが、今回の文案の中に、表現はいろいろですが、東日本大震災のことに触れている部分があり、これがよかったと思います。

小学生も中学生も、そういう経験をしたことを踏まえて、元気に旅立って行ってほし

いということや、自分もこれからの日本を支えていく、ひとりの日本人である、という意識を高める内容になっていて、いいのではないかと思います。予め構成の中に入れておいてもよかったのではないのでしょうか。

ただ、第五中学校夜間学級の卒業式の「お祝いのことば」で、東日本大震災で日本人のとった行動について触れられている部分で、「再認識させられました」という文言がありました。この表現が少し気になりました。日本人の良さが認められた、ということ再認識するのは自分達であって、この文言では、誰が再認識させられたのか、ということになってしまいます。ここは、他の人たちも皆同じ思いで認めている、という意味合いを含めた方がいいと思います。これは非常に大事なことなので、ぜひ祝辞の中で述べていただきたいと思いました。

遠藤教育総務課主査 第五中学校夜間学級の卒業式の「お祝いのことば」の文言は、和田委員に御指摘いただいた内容を踏まえて、修正をかせさせていただきますと思います。

石川教育長 最初に「夜間学級」とあえて言わないといけないのですか。「卒業生の皆さん」ではいけないのでしょうか。

小田原委員長 卒業書証は、「第五中学校の卒業を認める」という文面になっていると思います。

穴井教育総務課長 どの学校も、あえて学校名を言っていないんですが、いかがでしょうか。

小田原委員長 学校名は言っていないと思います。第五中学校の夜間学級のものは、そこだけで使う文面だからこれでいいと思いますし、各学校も書面の都合上、入れなかっただけであって、祝辞を述べる時は学校名を言ってもいいと思います。

ただし、夜間学級の卒業というわけではないですから、「夜間学級」の文言はいらないでしょう。

川上委員 ということは、4行目の「夜間学級に通い」という文言も変えるのですか。

小田原委員長 ここは入れないと文章が繋がらないでしょう。

穴井教育総務課長 夜間学級に通うことの大変さとか苦労を思って、あえて夜間学級と入れたのですが。

石川教育長 夜間学級の卒業ではなくて、第五中学校の卒業ですからね。

小田原委員長 正式名称は「夜間学級」でいいのですね。では、中の文面だけ「夜間学級」と入れましょう。

今、和田委員から、大震災・絆・復興に関するメッセージが入って、今年の卒業式に

はいい言葉が贈れる、という意見がありました。ただ、小学校も中学校も、全部同じ言葉ですよ。これはよろしいですか。せめて中学校向けは、もう少し何とかならないか、という気がしないでもないのですが。

川上委員 今、委員長がおっしゃった、小学校と中学校に全く同じ言葉が使われている、ということは、私も気になります。

もう少し細かいことを申し上げると、「一人ひとりの力は小さいけれど」というところは、「小さくても」の方がいいのではないのでしょうか。意味は同じかもしれませんが、「小さいけれど」はやや決めつけた感じですが、「小さくても」なら、もしかしたらできるかもしれない、ということになると思います。

もうひとつ、これから自分たちで何ができるのか、特に中学生はこれから大きくなって、社会にどのように貢献できるか、そういうことを入れるといいのでは、と思います。

絶対におかしい、ということではないのですが、気になったので申し上げました。

小田原委員長 「けれど」と「ても」は、大きく違います。「小さくても」ということは、大きい力もあるわけですが、ここでは、「小さいけれど」と言って、小さいと決めつけてしまっているわけだから、そこに大きな違いがあるでしょう。

それと、川上委員がおっしゃった後半の部分ですが、何年か前までは「国際社会で活躍してほしい」とか「国際的な視野を持って」とか、これからの社会を担っていく、有為な人間になるのだよ、ということ祝辞として述べていたのです。現在はその部分が削られてしまっているの、それがやはり、もの足りないと感じる部分になると私は思うのですが、文章をスリム化している中では、仕方ないかと思っています。

もう少し文章に肉付けした方がよければ、改めて考えてもらいますが、いいですか。

つまりどういうことかということ、中段の復興の文章の後のところで、「大きな力を生み出すことを知りました」とありますが、その後、これからの長い道のりの中で、困難な場面にあったとしても頑張っていきなさい、という文面が来ると、その前の大きな力を知ったことが、活かされてこないのです。本来は、前途洋々たる皆さんの長い人生の中で、困難もあるでしょうし、発展的なこともあるでしょうが、その発展的な部分に、今回知った大きな力を更に繋げていって欲しい等の文言になるのですが、そうすると段々と校長先生の式辞に限りなく近づいてしまいます。

私たち教育委員会の祝辞はこのぐらいにしておいて、校長先生に華を持たせた方がいいということなのかもしれません。

金山委員 どの祝辞もそうですが、最後の謝辞の部分で、「校長先生を初め、教職員の皆様、それから地域の皆様」と言っている文面が気になりました。地域運営学校の場合、この「地域」の中に、「地域運営学校の皆様」が含まれている趣旨だと思いますが、実際に地域運営学校の皆さんがどの席に座っているのかを、頭の中でイメージしますと、できれば教職員の皆さんのところに座ってほしいという想いもあって、「地域運営学校の委員の皆様」と一言入った方が、この学校は地域運営学校をやっています、というアピールにもなるし、いいのではと思いました。

それからもう一つ、高尾山学園の「お祝いのことば」ですが、特にこの学校の場合は、保護者の方も、子どもたちも、いろいろ紆余曲折があった上での卒業だと思いますので、もう少し寄り添うような言葉があればと思います。例えば、最後の「保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます」の後に「皆様方のこれまでのさまざまなことを思い、心からお祝いを申し上げます」など、何か一言入れていただくと、とても温かい感じになるのではないかと思います。

小田原委員長 いかがですか。

穴井教育総務課長 地域運営学校の文言については、こちらでも考えたのですが、評議員を置いている学校ですとか、ボランティアの方とか、さまざまな方に学校に参画していただいている中で、あまり地域運営学校だけを取り上げて言うのもどうなのか、ということで、あえて「地域の皆様」ということで、ひとくくりにさせていただきました。

それから、高尾山学園についてですが、これは難しいところで、保護者の方の御苦労というのは高尾山学園だけではなくて、他の学校のお子さん達も、皆さん同じ思いをされて卒業しているのだらうと思います。本来なら、第五中学校の夜間学級の文面にも、何年も働きながら学校に通う苦労を、言葉として入れたかったところですが、教育委員会からの祝辞ということで、あえて簡素にさせていただいております。

小田原委員長 金山委員が気になった点の一つは、地域の皆さんが来賓として来ていて、別の席に教職員が座っていることです。学校運営協議会委員や、地域の評議員の皆さんは、どちらの席に座っているのですか。

穴井教育総務課長 多分来賓席に座っていると思います。

小田原委員長 祝辞では、まず先生方に顔を向けているので、「教職員の皆様」と言った後、すぐ来賓席にも顔を向けないといけないから、そこでもう一言、「深く感謝申し上げます」みたいなことを言えば、スムーズだということですね。

金山委員 卒業式の場面をイメージしてみて、できれば学校運営協議会の委員の皆さんには、先生サイドに座っていて欲しいと思うのですが、でも、それはやはり違うかな、というのがあります。実際はどうなのでしょう。

石川教育長 評議員とは明らかに違うから、学校運営協議会の委員は、学校サイドにいてもいいのではないかと思います。

小田原委員長 教育委員会に代わる部分があるわけだから、むしろ学校側でしょう。

川上委員 学校側ということは、皆様に御礼を皆様に申し上げる立場なので、地域の方ということとは、また少し違うと思います。

式当日、学校運営協議会委員の紹介はないのでしょうか。評議員は紹介があると思いますし、地域の方たちの紹介もあるので、当然学校運営協議会委員の紹介もあると思います。

小田原委員長 「地域運営学校の皆様」と入れても入れなくても構わない、ということで、いかがでしょうか。

金山委員 式の場面を思い浮かべたときに、学校運営協議会委員の方の立ち位置というか、学校の中での扱いが気になったので、あえてそういうことも気にしたらいかがでしょう、ということで提案しました。文面に「地域」という言葉が入っていますので、今回は入れなくても構いません。

和田委員 学校の状況が違うので、ここに文言を入れてしまうと、状況によってそれを削除したり、また付け加えたりと、配慮しなくてはいけないことが増えてくるので、できるだけ簡潔にした方がいいのではないのでしょうか。

その場に応じて、臨機応変に対応するのは構わないと思います。

小田原委員長 確認なのですが、この扱いをどうするかということについては、改めて言わなくてもよろしいですか。つまり、市長以下、教育委員や部課長が各学校に行って、これを登壇して読み上げるが、ここに書いてあること以外は余り言わないようにする、これでよろしいですか。

穴井教育総務課長 はい、それでお願いいたします。

小田原委員長 状況によって、一言、二言ぐらいは何か言うかもしれないけれども、それ以外のことはお話ししないでいただきたい、ということが付け加えられるわけですね。

穴井教育総務課長 はい、そうです。

小田原委員長 それは、もし色々言っていていい、ということになると、教育委員会としての

立場がバラバラになってしまう恐れがあるので、これを読み上げていただきたいということですね。

登壇して、話し終わったら、壇上の机の上に置いてくるのですか。

穴井教育総務課長　　そうです、机の上に置いてきていただきます。

小田原委員長　　ということで、その様に取り扱うように、皆さんにお知らせいただきたいと思えます。

それでは、お諮りいたします。議題となっております第53号議案につきましては、一部修正を加えて決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長　　御異議ないものと認めます。

よって、第53号議案につきましては、そのように決定することにいたしました。

小田原委員長　　続いて、報告事項となります。スポーツ振興課から御報告願います。

小山スポーツ振興課長　　それでは、先日行われました第62回全関東八王子夢街道駅伝競走大会の結果につきまして、御報告申し上げます。

詳細につきましては、田中主査から報告いたします。

田中スポーツ振興課主査　　報告の前に、先日の大会では、お寒い中、またお忙しい中、委員の皆様、管理職の皆様には、会場に足をお運びいただきまして、どうもありがとうございました。おかげさまで無事大会を終了することができました。この場を借りて、改めて御礼を申し上げます。

それでは、皆様にお配りしております資料に基づいて、報告させていただきます。資料1、2、3の順に、簡単に説明させていただきます。

まず、当日発走及び申し込み状況ですが、前回の報告では、エントリー数が過去最大の487チームになったことを申し上げましたが、当日は469チームの参加があり、そのうち受付後に2チームが棄権しましたので、実際に走ったのは、467チームとなりました。この数は、昨年と比べても、今までで一番多い数となります。

それから2の各部門の上位チームですが、1部一般男子の二本松市駅伝チームAが、準優勝しています。私も放送で気が付いたのですが、福島県からの参加ということで、「ぜひ故郷に元気を届けたい」と、この大会で結果を出されました。福島からもこの大会で頑張るチームがあったということ、改めて知った次第です。

それと、これは前々から皆さんにお知らせしておりましたが、特別招待チームとして岩手県山田町の山田中学校を御招待しました。こちらは男女1チームずつの参加でしたが、とても健闘されて、結果として男子は優勝、女子は第3位という、輝かしい成績を残されました。

3の、大会を通じた被災地への応援について、というところですが、こちらに関しては、先ほども申し上げた、特別招待チームを招致したことと、「山田を応援する会」という組織があるので、そちらにネットを通じてコンタクトを取って、山田中学校が来るので、ぜひ応援してほしいとお願いして、在京の山田町出身者の方に集まっていたきました。当日の会場や沿道には、30名以上の方にお集まりいただいて、地元観光協会の、のぼりや祥纏、それに横断幕を掲げての応援となりました。

また、せっかく遠くから来ていただいたので、観光課の協力を得て、高尾山の薬王院にも参拝していただき、特別復興祈願を行いました。

それに、八王子にも同じ山田町という名前の町がございますので、そちらの町会にお願いして、八王子の山田町から岩手の山田町へという形で、横断幕をつくって応援をしていただきました。こちらには約60名の方が参加されて、沿道から応援する形で、とても盛り上がりました。

それ以外にも、山田町駅伝チームの宿舎に、直接訪ねていかれた山田町出身の方もいらっしゃったようです。

更に、東北の物産を買って、参加者にプレゼントしようということで、喜多方の観光交流課から喜多方ラーメンを取り寄せて配りました。

福島県は原発のこともあり、風評被害が非常に深刻です。その中で、こういう形で応援をしてもらってとてもよかったと、感謝のメールもいただいております。

最後になりますが、先日、山田中学校の校長先生からお礼の手紙をいただきましたので御紹介します。お手紙によりますと、地元では108名の方が親を亡くされたり、家を消失したりして、仮設住宅で暮らしているということです。駅伝の練習もままならない中でしたが、声援して下さる方々に、元気で走る姿をお見せすることがお返しになると、感謝の意味を込めて大会の参加を決められたそうです。見事な結果を出せたことはもちろんのこと、八王子市では皆さんから温かい声援や対応を受けることができ、本当に行ってよかった、これからの復興支援にも繋げていけるとい、こちらも感動するようなお手紙をいただきました。

報告は以上です。

小田原委員長 スポーツ振興課からの報告は以上ですが、何か御意見はございませんか。

和田委員 参加チームの数をもう一度教えて下さい。先ほどのお話では、今までで一番多いということでしたが、表では61回から62回の参加数は減っていますよね。

小山スポーツ振興課長 61回大会までの数字は申し込み数でございます。61回大会の実際の出走チーム数は、461チームでした。今年の62回大会では、申し込み数が487で、実際走ったのは467ということになります。61回大会までは、実際走ったチームがこの表から抜けています。わかりにくい表で申しわけございませんでした。

小田原委員長 表を作り直すべきだと思います。もし、そういう表であれば、むしろカッコ付けする数字は逆ではないですか。これで見ると、参加したチームが500近くあると思われまので、精査して下さい。

田中スポーツ振興課主査 こちらの表は訂正して、作り直しをいたします。

小田原委員長 上のところにも、太字記入は発走チーム数と書いてありますからね。

和田委員 山田中学校の生徒と、八王子市で参加した第三中学校や浅川中学校の生徒との交流は、何かあったのですか。

小山スポーツ振興課長 山田中学校には、2泊3日で滞在していただいたのですが、こちらには夕方に到着したこと、大会前日はコースの下見や、先ほど申し上げた高尾山の薬王院に行っていたこと、当日走った後は、翌日は学校があるということですので帰られましたので、残念ながら今回はそういう時間を取ることはできませんでした。

小田原委員長 山田中学校の生徒と第三中学校や浅川中学校の生徒が交流して、一緒に高尾山に行ったりすればよかったのかもしれませんが。

また来年同じように御招待できるかどうかわかりませんが、こういう催しがあるとなれば、走るだけではなくて、お互い交流をすとか、むしろ地元の中学生が積極的に何か企画するとよかったですね。

和田委員 震災があったからこの年に呼ぶ、ということではなくて、やはり支援というのは、非常に長い期間のことを考えていかなければいけないと思います。来年以降も可能であれば、ぜひこういう招聘や、被災地の物産を皆さんに配るような、継続的な支援の取り組みをしていただければありがたいと思います。

その時だけ、イベントとして呼んで盛り上げた、というのではなくて、八王子市にはずっと続けて支援をしていく、という姿勢を持ってほしいと思います。

小山スポーツ振興課長 和田委員のおっしゃるとおりだと思います。日本人は割と熱しやすく冷めやすいところがありまして、今回の復興についても、報道で聞くところによると、ボランティアの数が、震災直後に比べて大分減ってしまっているということです。今回の震災の復興は長い期間が必要になると思いますし、こういうイベントを継続してやることによって、皆さんにも思い出していただけますので、今後も検討していきたいと考えております。

和田委員 熱しやすく冷めやすい市の行政にならないように、お願いしたいと思います。

小田原委員長 今、課長からお話がありましたけれども、震災直後は17万人を超えたボランティアですが、今は1万数千人だということです。

ただ、今日、教育長から伺ったのですが、八王子市で被災地に車を何十台か送るボランティアをやるということです。ぜひ八王子市として、継続的できる支援を考えていただければと思います。

川上委員 今回の大会ですが、私はゴール地点で見せていただきましたが、皆さん本当に頑張っていました。

タスキにはチップが入っているので、そこから順番や何分何秒というタイムまで出てくるのですが、ゴールでもう一回、入った人の番号を確認していますよね。人数と番号を確認しながら二組でやっていたのですが、それを目で見ながらやるものですから、最終順位が違うわけです。それで観客の女性の方から「あそこで番号を言ってから順位が変わるのはどうしてですか」と御指摘がありました。順位に関しては、タスキにチップが入っていますので、とお答えしましたが、ゴールで大きな声で何番、何番と言っている順位がここに書いてあるものと違うというのは、誤解を受けるものになると思いますので、何か方法をお考えになるといいのではないのでしょうか。

小山スポーツ振興課長 ゴールの審判は、基本的に陸上競技連盟の方が審判員として携わっているわけですが、今いただいた御意見を陸上競技連盟に伝えて、来年度は改善を図っていききたいと考えております。

石川教育長 一応、陸上競技連盟の方は公認されている審判員なのです。だから、なかなか言いにくいところはあると思います。最終的には二つでチェックするわけで、向こうにお任せしている以上、あまり言わない方が、私はいいと思います。

競技はルールにのっとってやっているわけですから、こんな声もありました、と伝える程度でいいのではないかと思います。

川上委員 観客の方からそういう御指摘があったということは事実です。けれども、その時は、タスキにチップが入っているので順位は確実に判りますとお答えしました。

小田原委員長 審判員は大きい声で順位を言うから、余計目立って、見ていると番号が違うことがわかってしまうからだと思います。読んで書くということを一人でやっているわけだから、ミスは起こり得るし、たまたまミスがあったから指摘されたと思うのですが、陸上競技連盟に任せている部分がありますから、そういうこともありましたと、伝える程度でいいでしょう。

その他はいかがですか。

ちなみに谷川真理さんは、どのくらいのタイムで走られたのですか。

小山スポーツ振興課長 1時間1分11秒です。1km平均4分8秒ぐらいですね。

私なんかは思いきり走っても4分半ぐらいかかりますから、手を振りながら走ったというふうに考えても、相当早いですね。

小田原委員長 帰って来てもけろっとした感じでした。皆さんも健康でありたいですね。

その他はよろしいですか。

特にないようでございますので、スポーツ振興課からの報告は以上ということです。

小田原委員長 その他に、何か報告する事項等がございますか。

坂倉学校教育部長 特にございません。

小田原委員長 委員の方から、何かございませんか。ないようであります。

それでは、以上で公開の審議は終わります。教育長の定例会出席は本日が最後となります。大変お世話になりましたので、各委員の皆様から、教育長にお言葉がございましたらお願いしたいと思います。金山委員からお願いします。

金山委員 私がPTA活動を始めたのがお世話になったきっかけなのですが、私は他の教育長を存じ上げないので、教育長というと石川さんというイメージでずっとお付き合いしていただきました。PTAの会合にも積極的に出席していただいて、その中で、石川教育長に、「PTAも一緒にやろう、頑張ろうよ」と言われたことが、とても印象に残っております。思いがけなく、御一緒に働く時間を早く失うことになりましたけれど、これからも、また別の場面でいろいろ御支援いただきたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。どうもありがとうございました。

和田委員 教育長が日ごろからおっしゃっている、校長先生方への期待というか、「一つの学校を任されている以上、校長はもっと責任を持って」という想いは、私も強く感じて

いました。そういう想いを校長先生方にもぜひ受けとめてほしいし、それはこれからも教育委員として言い続けなければいけないと考えています。校長先生方のいろいろな考え方がこれだけ取り入れられる行政をやっているわけなので、その中で自分の学校に適したさまざまな取り組みをしていっていただきたいと思います。

できれば最後に、校長先生方にもう一言、お話をさせていただけるとありがたいです。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

川上委員　私の場合、初めは教育委員会というものがよくわからずに入っただけでした。仕事の内容はいろいろあって大変でしたが、その中で、ここまで温かい気持ちの教育長がいらっしゃる、ということがとても嬉しくて、いろいろ勉強させていただきました。本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしく願いいたします。

小田原委員長　最後に私から一言申し上げたいと思います。私は立場上、都道府県の教育長から区市町村の教育長まで、沢山の方々と接しておりますが、石川教育長は、その数多い教育長の中で、たったひとり、いるかないかぐらいの貴重な方だったと思います。そういう方が任期途中で去られるというのは、大変残念に思います。

これで八王子市の教育委員会からは去られるわけですが、その貴重な経験と見識とお人柄で、ぜひこれからも、私たちの八王子の教育のために、更なるお力添えをいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。どうもお疲れさまでございました。

それでは、最後に石川教育長からお言葉をいただきたいと思います。

石川教育長　大変に過分なお言葉をいただきまして、恐縮しているところです。教育長になって、平成16年10月から今月末で7年と5カ月ほどになります。私は現役の校長を退職するに当たって、これからの人生どうしよう、と人生設計を描いてまいりました。そこに教育長就任の話がきたものですから、実は何度もお断りをした末、どうしてもという強い要請を受けて、この場に来ました。

常に全力投球できたとは思えませんけれど、自分の持っているものはできるだけ出したいと、この7年5カ月を務めてきたつもりでいます。

いずれにしても、お引き受けした時は、家庭の事情や家族との約束もあったものですが、一期4年だけ、というつもりで務めを始めたのですが、前市長から、とにかく自分の任期のうちはやってくれ、と懇願をされたということもあり、どうしたものかと思いをしながら、ここまで来てしまいました。

いつも私の後任を探しておいてほしいと言い続けてきたものですから、昨年秋に、自分の後任はこの人でどうかと言われた時、それが私もよく存じ上げている方だったので、この人なら後を託せると思って、退任の決意をしました。

ここでごあいさつした方の中に、「人心一新」ということを言われた方がいましたが、私は組織というのは活性化する上でも、少しずつ、人の入れ替えは必要だろうと思っています。私も古希になりますし、ずっと考えてきたことでもありますので、ここで退任いたします。学校教育に携わって、通算で47年になるものですから、それしかできない、それしか能のない人間であるわけですが、やはり、かなりのエネルギーをそこに注いできた者として、何となく寂しくも感じます。

今は委員の皆さんや事務局の皆さん、そして傍聴に来ていただいた市民の皆様にも、本当にお世話になったという感謝の気持ちでいっぱいです。多くの方に支えられて、何とかここまで来られたと思っているところです。

家業が農林業なものですから、今後はそれに従事するかたわら、多少は今までの経験を生かして、ボランティアとして社会還元をしたいと思っていますところ。

私は、出会いというものをすごく大事にしたいと思っていますので、一度出会った方とは別れたくない。地球上の70億の人口で、ひとりの人間の出会いというのは、我々でさえ、せいぜい1万人かそこらだろうと思います。そういう出合いを大事にして、これからも自分で決めた道を歩いていきたいと思っています。本当に皆さん方ありがとうございました。（拍手）

小田原委員長　それでは、教育長のお言葉を最後に、公開の審議は終わりいたします。

ここで暫時休憩いたします。なお、休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は退室願います。

再開は10時ということで、お願いいたします。それではお疲れさまでした。

〔午前9時52分休憩〕